

下野國誌

十

					和書門
		八	八	五	
		一	四	二	
一	二	冊	函	號	類

庫文閣内					
七	四	冊	函	八	和
一	二	冊	架	五	書
二	〇	冊	架	二	類

内閣文庫		
番號	和	8852
冊數	12 (10)	
函號	174	229



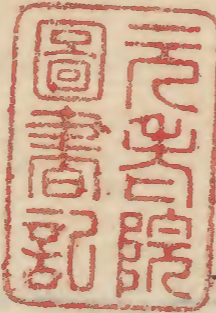
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





下野國誌十之卷

古城盛衰

芳賀百姓越智直守弘識

武茂城

那須郡武茂庄馬頭村小あり、宇都宮常陸公泰宗始て築く、正應永仁の年間あり。



宇都宮景綱三男

○泰宗

常陸公從五位下五郎左衛門尉母秋田城公藤原義景女初名盛宗法名蓮阿領武茂庄十餘郷

時景

美濃守從五位下法名蓮意母大宮兵部丞平胤景女

景泰

遠江守從五位下母同上為京都守護住鳥丸

宗泰

三河守伊豫國住人

朝宗

三河守大洲城主守都官
遠江守豐綱之祖

綱景

遠江守領都賀郡西方
十餘鄉西方氏之祖

綱泰

太郎左衛門尉實宗泰
二男

泰藤

左近將監法名蓮常母
芳賀伊賀守清原高貞女

忠泰

大久保五郎左衛門尉領武茂
庄大久保鄉三河國大久保氏祖

師泰

高尾明神社務母北条某
女

泰朝

三川安藝守上三川家督母同泰藤

氏泰

武茂右兵衛尉始領同郡狩野鄉号狩野將監後武茂家督母同上

泰景

大山田左京亮領同郡大
山田鄉母同上

氏朝

大山田美濃守母同姓三河
守宗泰女

綱定

八郎母上三川出羽守綱業
女後守都宮等綱之奥州卒

綱胤

彈正少弼初名綱泰

綱親

上三川越中守上三川家督母同上

綱家

武茂右兵衛尉母守都宮基綱養女實常陸大掾平氏基女

泰長

四郎左衛門尉領常陸
國鳥子鄉

泰宗

鳥子四郎鳥子狩野寺之祖

女子

上三川出羽守綱業室綱
俊母

持

綱

宇都宮下野守宇都宮家督母一色右京大夫源滿範女

賢

珍

老上司

太平記小宇都宮美濃將監泰藤同狩野將監氏泰宇都宮遠江守等往々小遠江守景泰其後孫伊豫國大洲の城主宇都宮遠江守豐綱の末子委一記一りして二男貞泰宇都宮公綱の猶子と成て遠江守綱景と号一都賀郡西方三沢郷鶴岡の峯に住其男綱泰太郎左衛門尉と号以實三河守宗泰の二男なり其男綱貞太郎左衛門尉其男綱朝太郎左衛門尉其男綱定徳威齋と号以其男太郎左衛門綱吉天正のちめ上京して織田信長公勤仕一信長公薨去の後本國小立歸て芳賀郡赤羽郷を知行其男太郎左衛門綱清が時慶長二年宇都宮一門没收の後舊領西方郷小潜居一其男太郎左衛門綱英元禄年中松平右京大夫殿當國壬生の城主一刺召出され同八年上野國高崎小所替して寶永元年

六月十七日三十一歳少く病死し綱英女子一人ありて同藩遠藤六郎左衛門重吉と嫁して男子二人を生む其次男を以て西方代四郎景高と名のとせしむ正徳四年十月廿六日廿一歳とて病死し故小断絶せり
西方太郎左衛門綱吉贈祖母并信濃守定久状
芳賀郡祖母并里長横堀氏所藏

右の書は各村とよ原二子探先之屋引形とて
ゆりた物ありて名ありては友子とて可
中へ生れし處大澤備前屋小倉本た
類は是れ也一信方也相移りて来りし
不ろおあまの状ゆり
之福元年三月七日
西方右衛門
祖母并信濃守
定久

下野國誌十

此頃、西方太郎左衛門綱吉、芳賀郡赤羽小居住して、同所の上原二子塚と祖母を井領の菅谷村と地替せし時の證文あり。西方長曆記と云ゆのよ、元龜元年庚午二月、相摸の北条氏直、西方の城を責り、刻太郎左衛門綱吉の旗下、山田修理亮澄兼、三沢右馬助、廣重、越路若狹純一、同伊勢正信、阿久津大膳義雄、渡邊源左衛門道友、青木加賀利國、和賀井河内宗義、和久井太郎右衛門長忠、越路甚五兵衛、同采女渡邊將監、石川大學、中新井兵部、中島將監、藤平大學、山田藤右衛門、阿久津久左衛門、上田吉左衛門、若林彦右衛門、川島善九郎等、防戦す。其後、更に聞えん、大山田鳥子狩野寺も、永祿天正の頃、其後、更に聞えん、美濃將監泰藤五代の後孫大久保左衛門五郎忠茂、三河國小住して、松平和泉守長親君小従ひ、永正三年丙寅八月、今川氏親の將北条長氏と戦て、武功を顯し、三河記小に記して、其家門の繁榮、世の知る所あらば、武茂の家名を相續せて、其曾孫正綱の三男、兼武茂の嫡流、持綱、宇都宮の家督を續ぎ、其曾孫正綱の三男、兼綱、再び武茂の家名を相續せて、

重興武茂系圖

宇都宮正綱三男

○兼綱 武茂右兵衛尉弥五郎母、佐竹掃部助源義親女

守綱 左衛門尉母長倉遠江守、源義尚女

豊綱 右衛門尉母松野大膳亮、藤原綱喬女

方綱 弥五郎

弥五郎方綱、元來佐竹家、屬して、今猶武茂弥五郎と号し、子孫連綿し、那須軍記、永祿十年丁卯二月十七日、佐竹義宣の下知、武茂左衛門尉守綱、大山田彈正少弼綱胤、鳥子狩野泰宗寺那須資胤を攻り、武茂北長臣、北条豊後守義興を、大桶安藝守、螺良織部正飯塚伊賀守、星豊前守、薄井備中守、大金藤右衛門尉露久保清左衛門尉、小川内膳正寺、武名を顯し、其家名も、

芳賀城

芳賀郡真岡にあて、芳賀次郎大夫高親をめぐり築く、文治年中、小て、五行川の東岸より、大正五年真岡の臺に移し、

芳賀系圖

一品舎人親王九代後裔

瀧口藏人清原高澄七代嫡孫

○高親

芳賀次郎大夫建久九年八月三日卒、本作朝重

高禎

芳賀太郎承元元年丁卯六月六日卒

高行

小太郎天福元年癸巳十月九日卒

高明

大炊助曆仁元年戊戌三月十七日卒

高俊

左兵衛尉永仁六年戊戌九月十三日卒、法名雄山宗泰号養徳院

重廣

大膳亮仕那須頼資

重行

芳賀左衛門住那須郡兼沢郷後孫在奥州

高直

伊賀守正安二年庚子三月廿二日卒、法名英心道鉄号生天院

高房

肥後守四郎領同郡八木岡

高政

八木岡四郎實小栗孫次郎左衛門尉重宗次男

高真

三河守五郎領同郡小宅、小宅并八幡社司東宮氏祖

高置

小宅藏人觀應二年卯三月廿七日於駿州薩埵山討死

高久

左兵衛尉實、宇都宮景綱三男建武元年甲戌卒、法名智山道惠号光明院

高名

從五位下左兵衛尉入道禪可、越後守護職應安五年壬子七月晦日卒、法名号松林院直山禪可八十二

富高

岡本信濃守觀應二年於駿州薩埵山討死

正高

信濃守貞治二年八月廿六日於武藏野討死

高貞

從五位下伊賀守彈正少弼兵庫助初名公貞實、宇都宮貞綱長男歌人法名号本性院徹山道覺、本作貞高、非也

新和歌集秋 清原高貞
芳賀高定之遺跡を賜はて芳賀高定と名乗り相續は

高家 駿河守實高名長子 同郡飛山城王
高 清 駿河守移往氏家郷勝山

高朝 伊賀守八郎法名普天道照
成 高 右兵衛尉入道光阿法名純 叟道清

女子 武茂美濃守時景室泰藤及上三川泰朝大山田泰景等之母

正 綱 宇都宮明綱家督称下野守
興 綱 芳賀孫四郎後守都宮家督 称下野守

高 益 左兵衛尉法名忠翁道賢
景 高 左兵衛尉初名益親法名華 陰道春

高 盛 左衛門尉領同郡若色郷 若色清水等之祖
景 秀 袋方式部少輔法名永存 住越後國袋方城

高 義 修理大夫永祿九年十月 為佐竹義重討死法名淨安
朝 高 厚木美濃守属北条氏政住 厚木法名芳樹院觀山淨光

建 高 刑部大輔右馬允初名高孝 芳賀惣領法名建好宗徹
高 經 右兵衛尉初名高勝天文己亥 八月生害法名天質道高

貞 清 真岡土佐守十郎
重 季 玉生和泉守玉生雅樂助藤 原綱宗家督

高 照 芳賀次郎沙弥弘治元年乙卯三月生害法名芳宮道賀号高照院

女子 那須修理大夫藤原資胤室資晴母

女子 玉生美濃守藤原高宗室

建高、高經等、宇都宮尚綱朝臣、背子滅亡、依る、益子勝宗の
三男十郎宗定其遺跡を賜はて芳賀高定と名乗り相續は

高 定

芳賀左衛門大夫實益子勝宗男天正十六年戊子正月四日卒六十八
法名雄台院機山道鑑

高 繼

伊賀守十郎實高經三男高照舍弟法名直山道正

高 武

左兵衛尉十郎實宇都宮廣綱三男慶長十七年壬子十月廿日卒四
十法名天德院惠鑑道光

高 成

十郎仕氷戸家

東鑑よ、文治五年己酉八月奥州泰衡追討の条よ、宇都宮左衛門
尉朝綱郎後紀權守波賀次郎大夫以下七人以安藤次為山案内
者面々負甲足馬密々出御館自伊達郡藤田宿向會津之方越于
土湯嵩鳥取越等攀登于大木戸上國衡後陣山發時聲飛箭前
此間城中大騷動國衡以下邊將無益于構塞失力逃亡云紀權守波

賀次郎大夫等勲功事殊蒙御感之仰但不及賜所領被下旗二流被
御可備子孫眉目之由云云云云同承久三年辛巳五月十三日宇治川合
戰の条の手負の中小波賀小太郎云云云云

太平記よ、芳賀禪可入道同息伊賀守高貞同二男駿河守同姓肥後守
同岡本信濃守同清新左衛門為直等往々小々云々云々禪可入道ハ
駿州薩埵山合戰の軍功よ依て越後の守護職よ補せられし云々其後
貞治二年八月鎌倉の左馬頭基氏の謀らひよて上杉民部少輔憲顯を
以て越後の守護職よ替られし云々此憲顯ハ薩埵山合戰小直義入道
の味方よて尊氏將軍の第一の敵と成り不忠不義の者なり云々基氏
を育つる舊好ある故なり然ま禪可入道大に憤りて降参不義の憲
顯が為小忠賞恩補の國を召放さる様やあつて上杉と越後みく
數月合戰しつゝ禪可終よ打負て守護職を奪はるの事なり云々一族
郎等數多討まらり其上憲顯鎌倉の執事と成て下ア云々禪可
いふ憤り子息伊賀守次男駿河守甥岡本信濃守等を遣はして武
藏野を合戦み及び云々基氏の大軍に駈ちこまれ岡本討死し芳賀
兄弟散々小敗北をとり記し云々

下野國志

中山式部信直
直ハ丹治真人の姓ニ武藏國の丹黨ノ出ル世々宇都宮家ニ仕ヘ功ありて後孫ハ河内郡野沢村并ニ都賀郡下石橋村ノ連綿トシテ今あり

去次家下凍圃
之事孫亦已下
一族不悖子孫
抽名効業感入
具足亦見但書

中山式部信直

芳賀家高員

天保二年

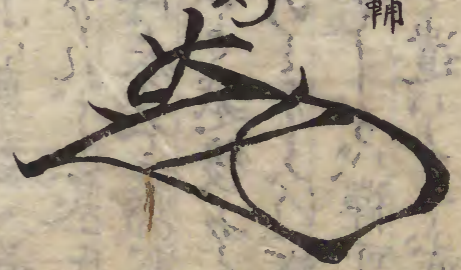
五月廿一日

中山式部信直

芳賀家花押

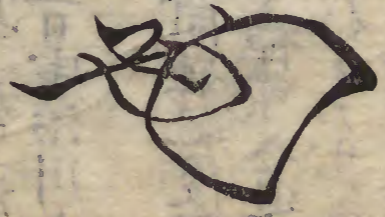
刑部大輔

建高



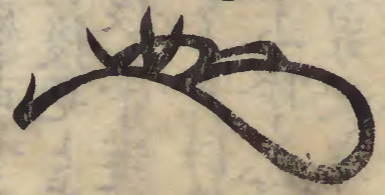
右兵衛尉

高員



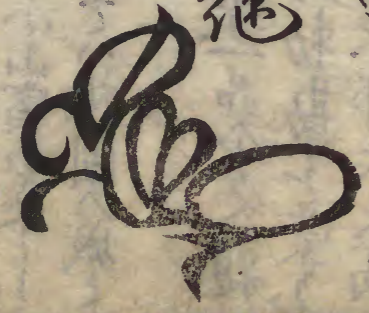
左衛門大夫

高定



伊賀守

高継



下野國共十

下石橋里長中山松兵衛所藏

櫻雲記よ、正平十八年北京貞治二年八月廿六日、基氏武州岩殿山より、芳賀伊賀守高貞と合戦、芳賀敗軍、基氏は是を追て野州天王宿に至る、宇都宮和を乞、是より於て基氏歸陣とあり、今に天王宿と云ふ、今の小山宿多ぶ、舊より牛頭天王の社あり、然呼シカヨミ、其頃、小山の城を、祇園の城と唱へり、さて上の条、南朝紀傳より、

高澄一本よ
吉澄よ作化

宇都宮興廢記よ、芳賀家、八代皇第四代天武天皇の皇子、一品舎人親王九代の後裔、瀧口藏人清原高澄の男、高重、花山法皇の勅勘を蒙り、下野小配流せられ、芳賀郡大内、庄に住りて、七世の孫、次郎大夫高親が時、小宇都宮宗綱の旗下と成、それより五世の孫、左兵衛尉高名入道禪可が時、小至り、越後の守護職、小補せられ、宇都宮氏綱の後見と成、て、近國小威を振ひ、さうが鎌倉の管領、基氏の計らひにて、越後の守護職を召放され、武藏野より合戦、敗軍、遂に小改易せられ、けり、其後、左兵衛尉成高が時、嫡男、太郎九宇都宮の外孫、つる、小依り、前下野守、明綱の家督を續ぎ、正綱と号り、下野守、小任り、二男、次郎三郎を以て、芳賀伊賀守、高益と名乗らせ、同根の因あり、依て、両家とも、小繁昌し、京都將軍の御内書を拜受し、關東に於て、歴代

規模ある家筋にて、當時、五千貫文の分限あり、と記し、同書よ、正綱の二男、興綱、芳賀弥四郎と号り、て、芳賀の城、小在り、結城政朝と謀て、甥、宇都宮忠綱を退け、押て、宇都宮の城主と成、て、下野守に任じ、然るに、一族、芳賀刑部大輔、高孝、同息、右兵衛尉、高経、并、小壬生中務少輔、綱雄等、忠綱は、無二の忠臣を興綱を深く悪とて、叛き、さうが、猶興綱の嫡男、尚綱の時、至り、逆意を企て、さう故、小高経、同郡、飛山小在り、さうを生捕て、天文八年己亥八月、誅し、子息、次郎高照、剃髪し、興州、白川に退き、十年を経、天文十八年己酉九月廿七日、那須高資を語らひ、塩谷郡五月女坂より、合戦し、尚綱を討取り、壬生綱雄と意を合せ、相摸の北条氏康、内通し、宇都宮の城を乗取らり、其以前、芳賀の城、益子勝宗の三男、十郎高定、相續り、て、在り、さう、尚綱討死の後、幼主、弥三郎を、芳賀、小引取り、守り、育て、其後、那須家臣、千本十郎資俊を語らひ、天文廿年辛亥正月廿二日の夜、那須高資を討つ、を、弘治元年乙卯三月、芳賀、次郎高照、を、芳賀の城に、寄せ、腹切らせ、常陸の佐竹義昭を頼り、壬生綱雄を追伐し、弘治三年丁巳十二月廿三日、幼主、弥三郎を、宇都宮の本城、小歸し、入、廣綱と名乗らせ、下野守に受領せさせ、

武家感状記
小備前の光政
朝臣の家
芳賀内藏元
と云ふ

佐竹の息女を嫁て、高定、身退き、芳賀の家督、故高経の三男、三郎
高継を以て相續させ、伊賀守と名のせ、その實子六郎信高を、同郡
小貫郷とて少地をあたふ、小貫六郎と名のせたり、信高の事
次の益子系圖の末に記し、考合は、伊賀守高継、男
子、依り、宇都宮廣綱の三男十郎高武を以て家督とし、其身は
同郡飛山の城に引移り、云々とあり、真岡般若寺記録に、當城、天正
五年丁丑、芳賀伊賀守高継の時築く古城、御前と云所あり、あてま
す、高武、宇都宮國綱の連枝より依て威勢を振ひ、慶長二年、吉見
國綱の養子の事、小付て内乱を引起し、豊臣殿下の命、小背きたる故に
一族郎從、残るは、闕所と成る、真岡の西郷と云所、小潜居して、慶長十
七年壬子十月廿日、四十一歳とて終り、其子息十郎
高成、後年、水戸家へ召出され、芳賀左兵衛と名乗り、子孫連綿
なり、又御直参も、芳賀市三郎と云人あり、奥州仙臺、出羽の羽黒
白川古事考、小結城義永の旗下、芳賀越後守、同備中守、
常陸記譚、小那珂郡大子の城主、芳賀河内守、と云ふ、

小宅三河守高真が後孫、代々同郡小宅郷に住し、
族没収の後、藏人高良が男清左衛門、高豊、民間より下り、真岡の西郷と
云所、たゞ、東郷とも、真岡町あり、其一類あり、小宅郷あり、
高良の舎弟三左衛門貞高、常陸國坂戸の城代あり、後年水戸家へ
召出され、今猶小宅三左衛門と名乗りて連綿あり、
八木岡肥後守高房が後孫、代々同郡八木岡郷に在り、伊織貞家が
時、天文十四年乙巳九月、常陸國下館の城主、水谷出羽入道蟠龍と、同郡
久下田郷石鳩原とて合戦して討死し、其子伊織貞勝、後年御直参り、名
出されて、今八木岡大助と号し、連綿あり、
岡本信濃守富高が後孫、宮内少輔重親が時、塩谷伯耆守孝綱の重臣と
成り、其子讚岐守正親、豊臣家へ召出され、委しく、上の塩谷系譜
の末に記し、
厚木美濃守朝高、叔父建高が叛逆を諫め、相州厚木に移住
し、北条家の被官と成り、結城晴朝に從て、芳賀郡沖村に歸
住し、其男惣右衛門某、母方の苗字を續き、條崎玄順と号し、
醫を業とし、大江戸に住し、其後孫、本氏小復して、芳賀玄順と云ふ、

若色掃部助清水大和守真岡土佐守等も天文天正の頃往々見え
 今太田原の家士は若色小平と云ふ所を清水の後ハ詳ならず
 ついで云清原姓ハ大系圖ハ一品全又親王の後とありて天武天皇の
 御齋宮ハ三代實録ハ清原真人ハ清見原天皇の後とありて清
 見原を中略せり然れども清原と二字ハ書テもキヨミハラと唱ハラス
 例カレども今ハキヨハラと唱ハラスハキヨミハラと唱ハラス
 天皇孫百濟王後とあり是ハヤヤリ別姓ハ混ズルハ

益子城

芳賀郡益子郷ふあり紀權守正隆チキキ築ク康平年間多
 少那流山の麓チキキ後山上小移チキキ城跡二所あり

益子系圖

贈後二位大納言紀吉佐美卿ト五世

常陸國信太郡司紀貞頼嫡孫

○正隆

益子權守紀八郎

正頼

紀權守

正重

紀權守文治五年奥州征伐之刺頭武功

女子

栗田左少將藤原兼仲室宇都宮宗綱母

宗重

紀權守

朝貞

紀權守

國名を以て權守と号せりいさろ得びされど其頃ハ木曾の中三權守兼遠
 九郎判官の郎等小も權守兼房ありハ猥ニ号せりものなり

貞重

越後守

貞正

出雲守從五位下永和三年己酉
言卒六十七法名法雲院春山芳樹

勝直

出雲守入道市黃應永三年丙子八月十五日卒六十三法名清光院月
潤涼心

女子

横田安藝守藤原泰朝室師綱母

勝貞

紀二郎正長元年戊申四月廿八日卒六十五法名法德院直心徹晴

勝秀

紀二郎實勝直二男長祿三年己卯六月廿二日卒五十六法名放光院日峯照郭

勝光

紀八郎寬正六年己酉八月十日卒五十九法名聖光院月峯照影

勝家

兵部少輔應仁二年戊子三月
朔日生害廿五法名觀理道光

紀一九

應仁三年被害于時五歲

正光

筑前守入道睡虎初紀權守享祿二年癸酉十一月廿七日卒九十法名正光院
徹參了無依兄勝家懦弱害之而為家督云

勝久

紀三郎

行正

紀六郎屬那須家

賢仁

大羽山地藏院住持

一本正光を勝宗として兄勝家を害其妾を奪ひ猶其子を害して

勝宗

信濃守入道顯虎天文七年戊戌九月廿二日卒六十九

女子

横田四郎兵衛尉藤原綱色室綱維母

安宗

宮内少輔紀四郎天正六年戊寅二月蟄居同二月十日卒六十八

勝忠

紀五郎領同郡七井郷

勝定

七井五郎

高定

紀十郎芳賀家督号
芳賀左衛門大夫

信高

小貫六郎領同郡小貫郷

家宗

宮内大輔實君島備中守平高胤二男天正十七年己丑三月廿日叛宇都宮家而討死于時六十一

東鑑、文治五年奥州泰衡征討の条、宇都宮朝綱の郎等紀權守、波賀次郎大夫等、西木戸太郎國衡を攻落し、拔群の勲功を顯し、頼朝卿の御感預り、白旗一流了賜り、子孫の眉目小備ふべき旨仰らる云々、と云々、
太平記、宇都宮の紀清の両黨、戰場に向く命を棄る事、塵芥よりも尚輕く、と楠正成、賞し、
紀氏の始祖、姓氏録、建内宿禰男紀角宿禰後也とあり、此系圖の

始り、大納言古佐美卿、公卿補任、紀宿奈麻呂子征東將軍大納言贈後二位延曆十六年四月己未薨六十五とあり、紀氏系圖、從三位飯麻呂子古佐美とあり、日本後紀、桓武天皇延曆七年、以參議紀古佐美拜征東將軍、八年夏古佐美伐奥賊、師敗績于衣川、
宇都宮興廢記、益子家へ入皇八代孝元天皇の皇孫武内宿禰十五世大納言紀古佐美卿の末葉、紀八郎貞頼が時、後冷泉院の勅を蒙り、始て常陸國信太の郡司と成て下向、
朝臣、嫁して、宗綱をむ、宗綱、宗圓座主の猶子と成て、下野常陸兩國の守護職と成、
正隆益子の城主と成、下野に移住、
長く宇都宮の旗下と成、代々主家を補佐、
今紀四郎勝宗が時、至く四千貫餘の地を領し、芳賀と並、宇都宮の羽翼と呼ばれ、
蟠龍軍記、享祿四年古河公方晴氏朝臣の使者として、益子信濃入道顯帛水谷兵部大輔勝吉と宇都宮小至、
宇都宮の旗下、
此使者、
同書、天正十年、益子宮内少輔家宗、宇都宮、
水谷蟠龍と合体、
高塩伊勢守政平、羽后内藏助時政等を討止、
笠間左衛門尉時廣と、
戦、

宇都宮興廢記云、天正十七年三月、宇都宮國綱、芳賀伊賀守、玉生美濃守等と密謀して、益子宮内少輔家宗を攻め、其所領六百町餘を没収し、ととのゆき、家宗が子孫、常陸の流罪にして、久慈郡の潜居し、とて、云、今同郡大子の郷士、益子民部と云りのありて、其後孫ありとて、都て久慈郡のうら、益子氏へありて、水戸家の藩中ありあり、當國黒羽の家中にも、益子某と云くあり、無住法師の雜談集にも、宇都宮紀の黨、小貫新左衛門尉と云、精兵ありと云くと記し、今芳賀郡乙貫郷、冰室村の里正、小貫新左衛門と云ものあり、其後孫あり、其の詳あり、七井五郎、小貫六郎等の後孫、民間に下りて、今其所あり、

壬生城

都賀郡壬生驛より、寛正三年壬午十月、壬生筑後守胤業、とて、築く、壬生氏住とて、依て、當所を壬生と云、古名、上原とて、一所あり、

壬生系圖

垂仁天皇后胤

小槻宿禰今雄苗裔壬生官務庶流

胤業

筑後守彦五郎文正二年乙丑卒七十法名龜雲道鑑号常樂寺

綱重

筑後守左衛門佐大永三年癸未卒七十六法名祐蓋東閣号大徹院

綱房

中務少輔弘治元年乙卯三月十七日卒七十七法名雲山良瑞号龍桂院

周長

号德雪齋甥綱雄叛宇都宮仍討之後年其子為義雄生害

資長

左衛門尉祐次郎領大門宿今云上殿村

資忠

大門圖書助祐七郎

綱雄

下総守中務大輔天正四年丙子二月廿五日為叔父周長生害之
法名惠光方折号龍昌院

昌膳

日光山坐禪院住持

義雄

上総中務大輔初名氏勝天正十八年庚寅七月八日病死于時相州酒
匂川在陣法名雄山文英号寒光院

女子

皆川山城守藤原廣照室隆庸母称鶴子

女子

称伊勢龜一色左衛門源滿義室

宇都宮興廢記云壬生康沼の兩城主壬生上総介義雄下総守綱雄の子
初名彦五郎氏勝と云其先祖崇神天皇の皇子豊城入彦命に
後裔壬生部公より出高祖筑後守胤業當國下向一宇都宮正綱の後
て壬生の城を築き是に住其子筑後入道東關が時小至く康沼の城を合

て領以凡南に都賀郡大宮村西に安藝郡足尾山北に塩谷郡高原山を限り
て其務一に方貫餘の不限て宇都宮の旗下して紀清の兩黨より倍
して第一の長臣なり然るに近年芳賀左兵衛尉高武宇都宮國綱の連
枝より依て我意を振ひ諸臣を蔑みと憎み天正十三年北条氏直
小内通一密に皆川山城守廣照とも北条の旗下小属に云々と記し
しりされど先祖を壬生部公より出り家なり姓氏録に稻城壬生公を
生官務の庶流とて稻城壬生公より出り家なり姓氏録に稻城壬生公を
垂仁天皇の皇子於知別命の後也とありて小槻臣と同姓なり其官
務の事職原抄小史八人左右大史各二人中古以来小槻宿禰為一史行官
中事謂之官務多五位也其餘彼一族及門徒等依器量任之凡官務
者大政官文書悉知之樞要之重職也小槻氏称祢家宿禰儀也
鹿沼の山口安良が云壬生系譜一本小初代筑後守某二代筑後守胤業三
代筑後守意安四代下総守綱房五代上総介義雄と記して義雄の父綱
房宇都宮廣綱小叛く依て天正四年二月廿五日鹿沼の天満宮の廣前
於て舍弟德雪齋を討て後年德雪齋は綱房の子義雄が為り討て
とあり誤かり德雪齋が討て綱房の子綱雄とて綱雄の子義雄を

那須城

那須郡三輪郷にあり、從五位下那須權守資家より築く、天治二年乙巳にあり。

那須系圖

大織冠鎌足公嫡流攝政兼家公五男

道長

攝政大臣号法成寺入道殿又御堂關白母攝津守中兵衛寬仁三年己未三月出家法名行覺万壽四年丁卯十二月四日薨六十二

長家

從二位權大納言母左大臣高明公女

道家

從五位下称大夫君母源高方女

資家

從五位下那須權守改名貞信七世之祖依忠平公之謚也、天治二年乙巳下向野園那須郡而号須藤

資通

刑部丞

資滿

太郎

資清

太郎属源家而平治合戰討死

宗資

太郎

資房

次郎那須武者所實、資清二男

資隆

太郎

光隆

林田太郎母小山大掾政光妹

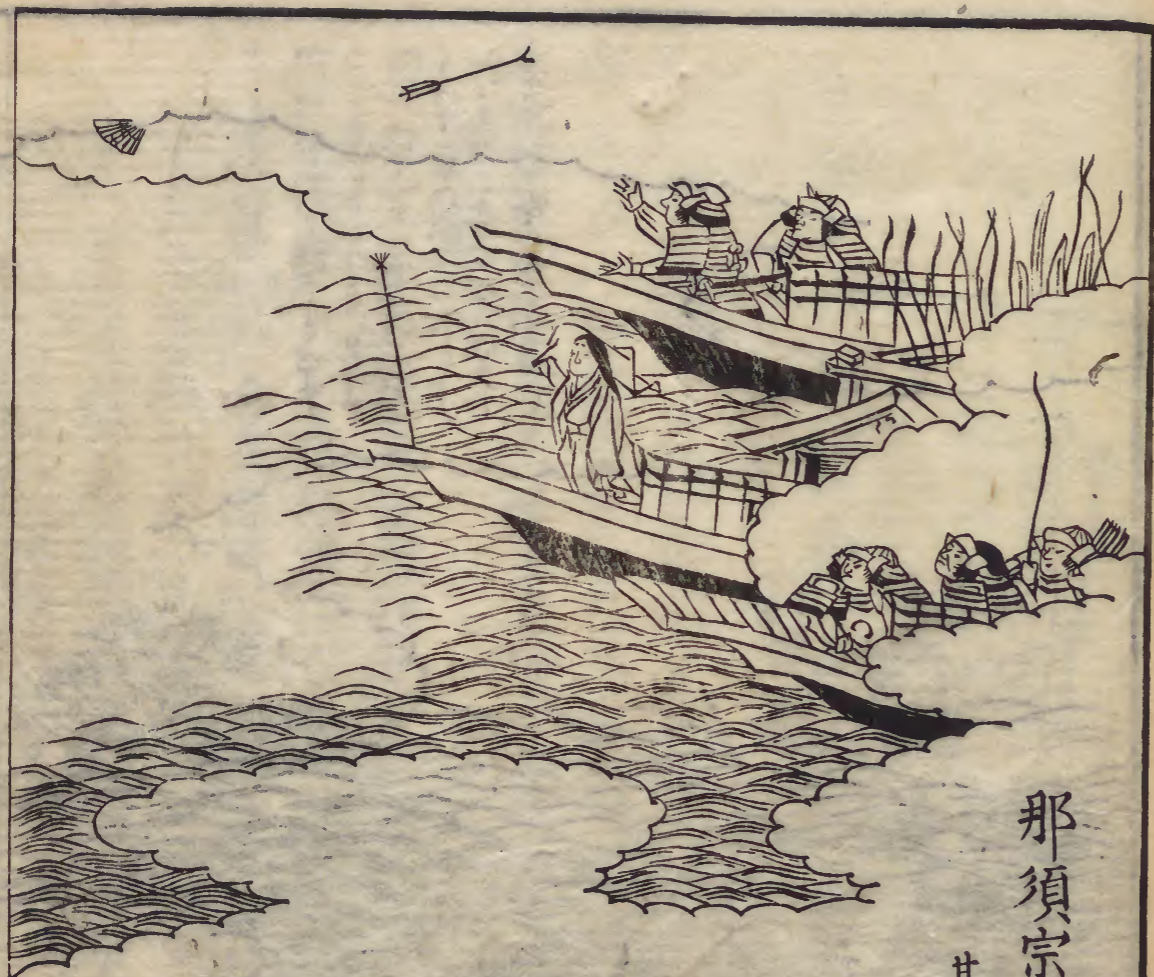
系譜云光隆以下至為隆背源氏而属平家餘一宗隆一以從源家故為惣領云

泰隆

佐久山次郎

幹隆

羊淵三郎



那須宗隆射扇的之圖

某侯所藏之屏風

縮圖於狩野守信畫

宗隆之花押

宗

久

隆

福原四郎

資廣

小太郎實之隆男一本作周防守

之

隆

那須五郎後改資之而本家相續

實

隆

瀧田六郎

湍

隆

澤村七郎

義

隆

堅只郎後移在興野郷号興野八郎

朝

隆

梶田九郎

為

隆

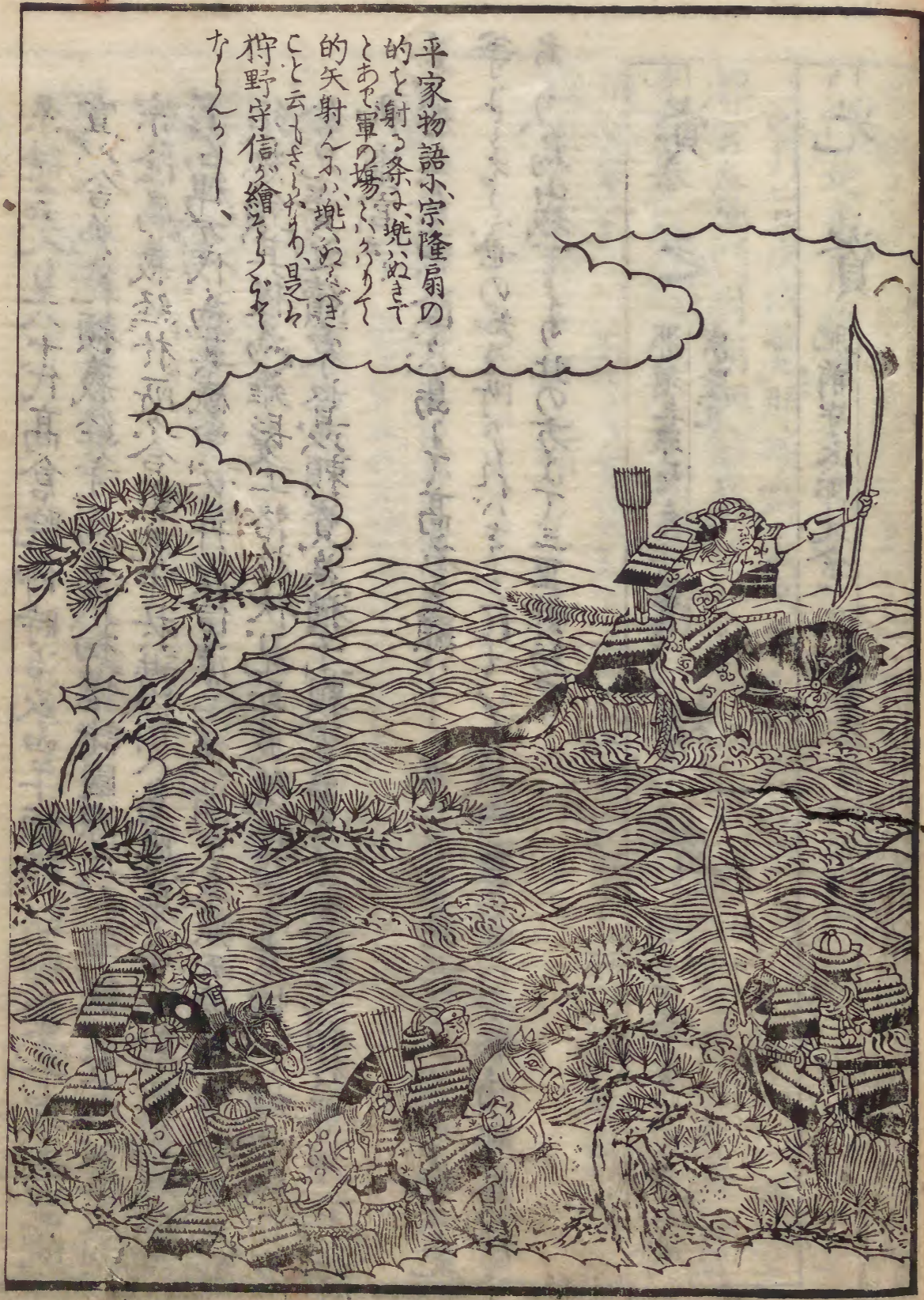
戶福寺十郎後移在千本郷号千本十郎

宗

隆

餘一郎相續父之家名而改資隆

平家物語小宗隆扇の
的を射る条子、堯ぬきて
とあ軍の場、いかりて
的矢射ん、堯ぬきて
こと云もきりや、是れ
狩野守信の繪と云ふ
かゝる



下野國誌十



十九

系譜云人皇八十八代高倉院御時治承四年源頼朝卿蒙平家追討院宣以舍弟範頼義経寺為名代相催諸國源氏引率數万軍勢入洛之刺宗隆屬義経於所々合戰就中於讚州八島應嚴命而射扇的譽振天下名輝万代為其感賞於丹波信濃若狹備中武藏五箇國賜莊園為那須惣領其後為薙髮上洛於伏見即成院遂往生素懷云嫡子依幼少舍兄資之續家督以頼資為猶子頼資崇亡父靈建立祠於那須莊号御靈宮云

そ那須余宗隆八島して高名を顯し事平家物語も源平盛衰記等よそそく世の知る所なればさしりもそく御靈の宮ハ今那須郡恩田村あり鳥山城下より北の方して三里餘り也

資之

那須五郎初名之隆實宗隆兄

頼資

肥前守余實宗隆男從頼朝卿賜諱一字母守都宮朝細女

光資

肥前守太郎又余一

東鑑小建久四年三月九日丙子那須太郎光助拜領下野國北条内一村是来月於那須野可有御野遊之間為其經營被充行之云四月二日戊戌覽那須野去夜半更以後入勢子小山左衛門尉朝政字都宮左衛門尉朝綱八田右衛門尉知家各依召獻千人勢子云那須太郎光助奉馱餉云々云々光助則光資なり同嘉禎三年の条小那須肥前前司とあり光資あり建長八年の条小那須肥前前司とあり福原小太郎芦野地頭なり云々云々

資永

育王野次郎左衛門尉

朝資

荏原三郎

廣資

味岡四郎

資家

稻澤五郎

下野國志

資成 河田六郎

資家 五郎實頼資五男兄光資
無嗣子故家督 資忠 加賀權守

資藤 備前守五郎文和四年乙未三月十三日於東寺合戦討死

資方 芦野日向守芦野家相續

太平記小那須加賀權守より那須五郎等より討死すは資忠と資藤
よの父子なり資藤は足利尊氏將軍小從で東寺の合戦は武功をあら
し討死すよりしり

資世 越後守法名西雲 資氏 刑部大輔余一

資之氏 美濃守余一 資 遠江守大膳大夫母上杉氏憲
入道禪秀女

續太平記永享十二年鎌倉持氏朝臣の乱の時上杉方は那須美
濃入道同遠江守満資あり是は資之氏資の父子なり

明資 肥前守大膳大夫 資親 播磨守大膳大夫實氏資二
男兄明資無嗣子故家督

女子 宇都宮下野守藤原明綱室生女子

女子 芦名遠江守平盛詮室也 結城強正少弼藤原義永室顯頼
及資永母

女子 小峯修理大夫藤原朝脩室無子

女子 沢村越後守藤原資持室資實母

白川結城系圖小七郎朝光五代の孫大藏少輔親朝の長男結城大膳
大夫顯朝九代の孫彈正少弼政朝足利義尹將軍の諱の一字を賜はり義
永と改む親朝の二男小峯三河守朝常七代の後孫ハ修理大夫朝脩を
て朝脩ハ永正七年二月七日自害とあり小峯とハ白川の城地の名なり、

資 永

那須太郎實結城彈正少弼藤原義永二男母那須遠江守氏資女
永正十三年丙子八月三日生害于時十八歳

女 子

資永室同時自害

女 子

宇都宮下野守藤原成綱室忠綱母

女 子

沢村伊豫守藤原資實室資鳥母

資 久

山田次郎為資永被害于時六歳

那須記大膳大夫資親ハ女子三人ありて家督を譲るが男子あり

依て白川の結城彈正少弼義永の二男を、年養子とせしめり是ハ元
來資親の甥なり然る小其後永正八年男子をまうけ山田次
郎資久と名つけ六歳ふ成りしころ資親ハ小太田原出雲守を
らひ資永をうかひて實子資久ハ家督を續せんと謀る是ハ依
て出雲守大關伊王野芦野稻澤等を驅催し三百餘騎して福原の
城ハ押寄々々小資永ハ腹心の郎等關十郎義時密に福原の城を抜出て
山田の城に忍入り乳母が抱くる資久を奪取て立歸りしは資永大に歡
びく矢倉小上り資久をさし殺し死骸を寄手の中へ投出して、主
從差違ひく死ししは是ハ小於て那須家の正脈ハ断絶し云とあり

資 重

沢村五郎永享亂以來與兄資之依不和分莊為上下移住鳥山于時
應永廿五年戊戌正月廿五日也

資 持

越後守五郎母佐竹右京
大夫源義俊女

資 實

伊豫守母那須大膳大夫氏資
女

資房

修理大夫右衛門大夫母那須播磨守資親女此時依本家断絶合上下莊而為惣領

政資

壹岐守弥太郎母大關新左衛門尉平義任女

高資

武者所太郎母岩城左京大夫平常隆女天文廿年辛亥正月廿二日於千本資俊館生害

資胤

修理大夫初号森田次郎母太田原備前守丹治晴清女兒高資依生害本家相續為惣領

資郡

福原彈正左衛門尉初名資安後子森田

女子

佐竹右京大夫源義重室無子

資晴

從五位下修理大夫大膳大夫法名休山母芳賀右兵衛尉清原高經女實芦野日向守資豊女之腹云々代所領八万石餘改易知行千石云々

資景

左京大夫余童名藤元母小山彈正少弼藤原秀綱

資重

美濃守母小山守野守政種女寛永十九壬午卒所領二万三千石

那須記小永正十三年那須の正脉断絶依と鳥山の資房上下の莊を合て惣領と成那須修理大夫と名乗る云々

同十七年庚辰八月十二日白川の結城彈正少弼義永我子資永が修羅の鬱憤を晴さんと岩城下総守常隆の與力をくつゝ其勢都合一千五百餘騎を馳催し上那須の浄法寺繩つゝと云原へ押寄せり那須方も兼て期しつゝ事なれ資房父子興野長門守義忠熊田源兵衛高貞大關新左衛門義任河合出雲守安則館野越前守直義小口若狭守重勝千本常陸公資俊荒井駿河守政藤岡太郎左衛門實一等をくつゝめ三百餘騎を馳向へ戦ひくつゝ敵陣より岩上弥三内藤左馬助と云々の是より關東よりくつゝ鉄炮と云火矢を放つたれ那須勢大に難義しをて荏原三郎朝秀鮎ヶ瀬源三義昌の兩人移りて彼岩上内藤を射落

シタリ其上敵將白戸淡路守、大關新左衛門ヲ討シ同志賀塚備中
守石沢新五郎と組テ討死シタリ、奥州勢ニシテ敗軍シテ散々
小成テ引退ク云々

大永元年辛巳十月十四日、岩城常隆去年白戸志賀塚を討テ、
無念と思ヒ白川義永、もよもよリ、宇都宮俊綱の加勢を以テ、其勢都合
五千餘騎、以テ攻来テ、那須の出城河合出雲守安則が守テ、河合の城を
攻落シテ、そよもよリ鳥山、向リ、河合の城を十重廿重、取圍ミ、
されども、那須家譜代の者ども必死と成テ、籠城シ、寄手も攻あぐ
ミテ、見えたり、處、宇都宮の軍師壬生德雪齋周長、謀コシ、終ニ
落城、及ビタリ、此時壬生が家臣稲葉七郎、技群の働シテ、討死シ、
其後那須資房と、岩城常隆と和睦有テ、常隆の息女を、那須弥太
郎政資、嫁合テ、程、多ク、太郎高資出生シ、タレ、両家の無異、静ニ
タリ云々

天文十八年己酉九月廿七日、宇都宮俊綱、千餘騎を引具、塩谷郡
五月女坂、寄来、是ニ依テ、那須太郎高資、大關右衛門佐高増、
太田原山城守綱清、芦野大和守資泰、伊王野下野守資宗、千本常

陸、資俊、福原安藝守資則、金枝近江守義高、角田莊兵衛重利、興野
弥四郎義國、稻澤播磨守俊吉等、三百餘騎、以テ、馳合セリ、大軍、追立
ラレ、坂より下ヘ引退キ、タレ、大將俊綱、小高き所、馬
を、下知シ、伊王野が家臣、瀬弥五郎實光、給リ、寄テ
俊綱を射落シ、ムキ、宇都宮勢、多ク、討死シテ、散々、小敗走リ、云々
此合戦、一本、小、天文十五年五月と記シ、是非、あり

同廿年辛亥正月廿二日夜、千本常陸、資俊謀計を企テ、那須高資を己が館
小招キテ、討取リ、是、宇都宮方より、千本を語リ、故ありと云、是
ニ於テ、舍弟森田資胤、那須の惣領を續ギタリ、云々

永祿三年庚申三月廿六日、會津の芦名左京大夫盛氏、白川の結城三河守義親
と合躰シ、奥州と下野との國境、小田倉と云所、押寄セリ、是ニ依テ、上那須
の大關右衛門佐高増、芦野大和守資泰、伊王野下野守資宗、太田原山城守綱
清、稻沢播磨守俊吉、金丸肥前守、河田六郎等、馳向テ、戦ヒ、利を失テ、散々
小敗軍シ、云々
同九年丙寅、大關、芦野、伊王野、太田原、稻沢、金丸等、那須資胤の不興を受、
是、小田倉合戦、不覺を取、故あり、是ニ依テ、佐竹家、内通シ、

小田倉と云
所、奥州白川
の西南の方
に二里許
黒川の北岸
なり

同年八月廿四日、上那須衆三百餘騎、熊田小押寄せり、佐竹常陸久義重、此舉に乗じて、那須を攻落さんと、東將監政義小二千餘騎を授く、茂木次郎義政、續谷織部等を攻落し、宇都宮廣綱、佐竹の加勢として、鳥山の西神長村の治部内山小押寄て攻戦せり、云々

同年丁卯二月十七日、上那須衆鳥山の東から下境村の大崖山に出張し、佐竹の先陣南次郎左衛門尉義郷、戸村十大夫義廣、小場三河守義忠、長倉遠江守義尚、其外武茂、左衛門尉守綱、大山田彈正少弼綱胤、鳥子狩野介泰宗、横田十郎綱久、松野讚岐守篤通、石川大和守昭光、大金備後守重宣等、其勢六千五百餘騎、攻来り、那須方、森田彈正左衛門資郡を大将として、大桶三河守重安、金枝近江守泰晴、熊田源兵衛高貞、岡太郎左衛門實一、高瀬大内藏親定、河合六郎安利、薄井越中守以安寺、千五百餘騎、中川を渡り、必死と成て防ぎ戦ひ、十九日引退き、云々

同年四月十四日、佐竹勢五千餘騎、下境の地へ攻来り、那須方、本庄三河守盛泰が居城に出張して防戦し、其人々小久保民部少輔秋元越前守同右京亮同豊後守金丸下総守瀧川泉藏坊寺たり、上那須の大関右衛門佐伊王野次郎左衛門、芦野大和守稻沢五郎左衛門、福原安藝守等、四

百餘騎、鳥山の北谷に押寄せり、斯の如く、上那須衆佐竹小属して、度々攻来り、資胤大に難義小及び、故興野、弥左衛門義重計、義を廻りして、資胤を諫言し、大関方へ参りて降参の義を勧め、小依て大関を、め上那須衆、歸伏して、以前の如く、上下一統し、云々、是より大関、法躰して、安碩と名乗り、云々、天正元年癸酉正月、佐竹義重、水戸の江戸、但馬守重通を攻落し、夫々小田讚岐入道天庵を討亡し、常陸一國を切随ひ、其勢ひに乗じて、那須を攻め、度々寄来り、雌雄、又武茂左衛門尉守綱、松野讚岐守篤通等、元来、宇都宮の一族、年来、那須と争て、合戦止期、云々

同十年壬午十一月八日、那須修理大夫資晴、密に大関入道安碩、太田原備前守晴清、福原安藝守寺小命、千本常陸、資俊、同息十郎資政、其老臣、田野邊將監重之、寺を、鳥山の城南に瀧寺に欺寄て、誅伐し、其苗跡を、茂木次郎義政に相續させ、千本大和守義隆と名乗らせ、是、大関入道故あり、千本と不和と成り、依て、先年千本が高資を討し、由を、資晴に語り、きき、詭言たり、故ありと云々

手向とあるハ
評問あるハ
古書小評と
平に作りし
往々あり

仍舊在少今信難言強請非純之也
自遠在及抄引之生後所皆都心
今微素皆皆由心之取志極有深意ハ
之平向亦在是所ハ海城之事晴期
親重活而能其日合之每執行を意
今意志ハ元白とあり抄引之生意

多賀谷下総
守八政経と
常陸國下妻
の城主あり
結城晴朝の
旗下と後
佐竹小属ハ

吾何事ハ此世也心之万之老因矣
正徳守之十載以同多能行以之
祥

五月廿五日

省人

大

多賀谷下総守

那須家所藏

同十二年癸未二月佐竹義重五千餘騎を率いて鳥山の川原表へ寄来り
那須方、大關右衛門入道安碩、同息土佐守増親、太田原備前守晴清、芦野
大和入道意休、伊王野下野守資宗、同息下総守資信、館野越前守直重、元田
友右衛門正信、興野尾張守義重、築瀬半兵衛宗武、益子紀六郎行正、薄井越中
守以安、稻沢五郎佐久山四郎高瀬、大内藏浄法寺中務大桶三郎河合大膳
等五百餘騎、其外茂木次郎義政が勢八十騎あり、喜連川の塩谷安房守
孝信が勢八十餘騎、狩野百村の野武士ども五百餘人馳加わり、その先途
と防ぎ戦ひたり、佐竹勢も左右あり攻めて、引退きたり云々

同十二年甲申、川崎の塩谷伯耆守義孝、喜連川の塩谷安房守孝信を
攻む、安房守、元来義孝の舎弟なり、大關安碩が娘を嫁せり
故小兄義孝小背きて、那須に属し、こればかり、是より依り、宇都宮國綱
も義孝の後詰として出張り、那須資晴も安房守を援けんと出陣
し、その跡より佐竹義重襲ひ来り、故小引返り、依り喜連川落城し、安
房守、佐久山へ落行り、故小伯耆守が手勢喜連川の城に入替りたり云々
同十三年乙酉三月、那須資晴、大關入道安碩と謀り、塩谷伯耆守義
綱が川崎の城を攻落し、喜連川を取返さんと、塩谷安房守孝信を

先陣として、其勢三百餘騎、塩谷郡薄葉が原へ發向り、是を聞り、山田筑後守
業辰、岡本對馬守氏宗等、手勢百餘騎許り、馳向り戦ひ、忽ち攻破し、
二人とも討死し、宇都宮國綱も後詰として、紀清兩黨三千餘騎、
壬生上総公義雄が勢二百餘騎を引率して出陣し、先陣平塚弥十郎
為貞、麻生弥吉郎家忠等、塩谷安房守を破れて討死し、國綱も
散々小敗軍し、國綱も多勢の中より取圍まれて、既小危り、是を
保正主從十六騎取返して討死し、壬生勢踏まひて防ぎ戦ふも、
國綱漸く席口を退き引揚たり云々

東國擾乱記、那須修理大夫資晴、天正十三年乙酉三月、宇都宮國綱と
塩谷郡薄葉が原に合戦し、國綱も多勢を破り、勢ひを棄て、孤川鷲
宿等大小の城五六ヶ所攻取て、近隣小威を振ひ、處小同十八年庚寅三月、
豊臣大閤秀吉公相州小田原の北条を御征伐として、御出陣在り、
東國の大小名御陣を馳集り、是より依り、那須が族家人
等も同く小田原に参上して、御動坐の儀を賀し奉り、北条既して
て、殿下奥州を征伐せんと、同八月十五日下野より下向り、小山に御陣を
給ふに及で、資晴より見参り、殿下資晴が邊参を怒り給ひ、那須

が本領をくく彼一族家人等よりけりあふく資晴より福原の地を
ぞ賜りて云々と記しあり

大関右衛門佐丹治高増

黒羽一万余石余

太田原備前守丹治晴清

本原一万余石余

福原安藝守藤原資孝

佐久山三千五百石

千本大和守藤原義貴

千本千五十石

蘆野日向守藤原盛泰

芦野二千六百石

伊王野下総守藤原資信

伊王野二千七百石改易

那須修理大夫藤原資晴

鳥六万石改易千石

以上那須七騎ト云

武徳安民記卷五下野國那須七騎、太田原備前守晴清、伊王野下総守資信、
大関左衛門佐資増、千本大和守福原安藝守、芦野民部少輔、岡本下野守、
記しあり、此中に岡本を加へ、非なり、最其頃岡本宮内少輔義保と
云人あり、太田原福原等と共に豊臣殿下に謁びとあれど、岡本、元来宇都
宮家の被官、那須の旗下より、其頃岡本下野守と聞えり、
織田の家臣より、神戸信孝朝臣の附人なり、後小石田三成同心して滅亡し
及ぐ、北畠軍記より、尾張國熱田宮の社司より出、岡本が

下野國の岡本氏、芳賀禪可入道の舎弟富高、河内郡岡本郷を領して、
岡本信濃守と号し、其後孫より清黨なるに混じるべし、
大関太田原の両家、繼志録に、太田原備前守丹治忠清十三代同備前守資
清入道永存の長男高増、大関肥後守高増、清十二代弥五郎増次、滅亡し
依り、其家督を相續し、大関右衛門佐と号し、後入道安碩と云、其子土佐
守増親、其子信濃守増榮、其子民部増茂、早世し、依り、其子増恒、家
督して信濃守と云す、永存の二男、太田原山城守綱清、其子備前守
晴清入道永全、其子備前守政清、其子山城守高増とあり、其先、武藏國
丹黨より出、丹治比真人の姓なり、世々那須家の羽翼とて、武功の家筋
なり、但し大関氏、もと平姓とて、常陸國小栗御厨、庄大関郷より出り、
伊王野、那須と一資隆の男、肥前守頼資、二男次郎左衛門尉資永よ
り、以来代々伊王野と住りて、下野守資宗の男、下総守資信、其子又十郎
資重、早世し、依り、二男又次郎資朝、相續し、豊後守と云、資朝女二人
あり、長女、井上新左衛門の男、數馬を聳養子とて、相續し、早
世せり、故改易せられ、家名のころろ、残る、次女、千本大和守義貴
の室とあり、又十郎資重の男、又六郎資直、浪人と成て、後、太田原家の

臣下とあり、伊王野五郎左衛門と名のり、子孫連綿して、
 福原、周防守資廣以来代々福原に住して、彈正左衛門尉資郡、那須
 資胤の弟をり、男子なきに依り、太田原晴清の三男を養子として、安
 藝守資孝と云、其子中務丞資廣子なき故、弟資保を家督として、雅樂
 頭と云、其子資盛、淡路守と云、其子資敏、内記と云、
 千本十郎為隆、後孫、常陸、資俊、至り、断絶、其名跡、茂木次郎義
 政相續して、千本大和守義隆と名乗、後自ら義貴と改む、其子大和守義
 定、其子大和守義等、早世に依り、舎弟又七郎資吉相續して、兵右衛門と云、
 さて、茂木次郎、八田右衛門尉知家の三男、茂木三郎知基、末孫なり、
 芦野、那須加賀權守資忠の三男、芦野日向守資方、後孫して、近代日向守資
 豊、其子大和守資泰、入道、以休、其子日向守盛泰、其子弥左衛門政泰と云、

下野國誌十之卷終

足利 梅溪田崎明義畫
 北越 竹邨遠藤順信書

